

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520916

研究課題名(和文) ナチズムの性政治に関する歴史社会学的研究

研究課題名(英文) Socio-Historical Study of the National Socialist Sexual Politics

研究代表者

田野 大輔(TANO, Daisuke)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：60330122

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、セクシュアリティの問題を中心に、ナチズムの政治の実態を歴史社会学的に考察しようとしたものである。「民族の健全化」を標榜したナチズムは、人種衛生的見地から性の領域への介入を強化し、結婚・出産奨励策を通じた生殖の拡大を企てるなど、セクシュアリティの問題に並々ならぬ関心を示した。だがそこでは、性の問題が単に抑圧され、生殖のために利用されただけでなく、ある種の「性の解放」の約束を通じて、性的欲望が積極的に刺激され、これを満たす権力の拡大が促されていた。こうした考察によって、ナチズムの性政治を通じた欲望の動員のメカニズムを明らかにしたことが、本研究の成果である。

研究成果の概要(英文)：This study examined the National Socialist rule from a socio-historical perspective by focusing on its sexual politics. The National Socialists, who held up "Healthy Nation" as their slogan, showed such great interest in matters of sexuality that they increasingly intervened in the sexual life of the nation from a standpoint of racial hygiene, and intentionally attempted to improve its reproduction by encouraging marriage and childbirth. However, they did not only suppress the nation's sexuality and utilize it for reproductive purposes, but also actively aroused its sexual desire through the promise of "Sexual Liberation" and extended their power by effectively satisfying it. This study thus clarified the mechanism of the National Socialist mobilization of desire through its sexual politics.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：西洋史・西欧近現代史

キーワード：ナチズム セクシュアリティ 性政治 歴史社会学

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者はもともとナチズムにおける「政治の美学化」と、それを通じた大衆動員のメカニズムを歴史社会的に解明する作業に従事してきた。その結果、ナチズムがもっぱら暴力や強制によってではなく、欲望の動員を通じて国民統合を達成したことが明らかになった。こうした研究の過程でナチズムの美学がもつ官能的な要素や、その根幹をなす性と権力の関係への関心を深めたことが本研究の着想にいたった契機である。それまでの研究ではナチズムにおける美と政治の関係に焦点をあて、自発性にもとづく動員の実態を解明することに精力を注いできたが、本研究では考察の焦点をエロスと権力の関係にずらし、性や生殖の問題を軸にして、より具体的にナチズムによる欲望の動員のメカニズムに迫っていくことをめざした。セクシュアリティの問題こそ、欲望の喚起・統制が表裏一体をなす自発的動員の典型であり、これに目を向けることで、それまでは本格的に扱えなかったナチズムの人口・人種政策との関わりや親衛隊を中心とするエリート美学の問題にもメスを入れることができると考えられたからである。

(2) ナチズムの美的政治については多数の研究が存在するが、多くの研究はこれを単なるプロパガンダの問題に還元しており、その動員のメカニズムにメスを入れた研究は少ない。本研究はさらにセクシュアリティの視点を導入することで、人口・人種政策との関わりも含めてナチズムによる欲望の動員の実態を解明しようとしたものである。また、ナチズム下の性の問題についてはいくつかの研究が存在するが、それらは基本的に保守的な性道徳の延長線上でナチズムを理解しており、純潔教育・母性保護・出産奨励といった抑圧的・禁欲的な側面にのみ目を向けるという限界を有していた。本研究はこの点に関しても、ナチズムが単なる伝統的な性道徳の擁護にとどまらない、ある種の「進歩的」な性道徳を唱え、それが大衆を動員する上での原動力となっていたことを明らかにしようとした。なお、この点については近年、一部の研究者がナチズムの進歩的な性道徳とそれによる欲望の動員に目を向け始めているが、一次史料による実証的な裏付けに乏しく、多くの点で問題提起にとどまっていた。本研究はこれをナチズムの性政治の包括的な理解へとつなげようとするものであり、その意味でも先駆的な意義をもつ。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、セクシュアリティの問題を中心に、ナチズムの政治の実態を歴史社会的に考察しようとしたものである。「民族の健全化」を標榜したナチズムは、人種衛生的見地から性の領域への介入を強化し、結婚・出産奨励策を通じた生殖の拡大を企てるなど、

セクシュアリティの問題に並々ならぬ関心を示した。だがそこでは、性の問題が単に抑圧され、生殖のために利用されただけでなく、ある種の「性の解放」の約束を通じて、性的欲望が積極的に刺激され、これを満たす権力の拡大が促されていた。本研究ではこのような観点から、ナチズムにおける性や生殖の問題、とくに⑦性道徳・性教育、⑧売春・避妊・婚外交渉、⑨同性愛・ヌードイズム・ポルノグラフィーの問題を取り上げ、それぞれにおいて性と権力がどう関わり、人びとの欲望の動員にどう寄与したのかを歴史社会的に解明しようとした。

(2) 性の問題をめぐって、ナチズムは人々の欲望を単に抑圧したわけではなく、むしろ抑圧・黙認・奨励を使い分けた複雑なコントロールを行っていた。本研究では、そうした動員の实態を包括的に検証することで、最終的には、ナチズムが伝統的な性道徳の革新をめざし、ある種の「性の解放」を約束することで、広範な国民の欲望を動員することに成功したことを明らかにしようとした。一般にナチズムは性の問題にたいして抑圧的であったかのように考えられているが、実際にはむしろ、教会や市民層の伝統的な性道徳に反抗し、その偽善性と弊害を攻撃することで、大衆的な支持を獲得することに成功していた。つまり、それまでタブー視され、抑圧されてきた性の問題を白日のもとにさらし、その人口・人種政策的な意義をはっきり肯定・承認することで、人々を良心の呵責や罪悪感から解放したのである。こうした「性の解放」の約束こそ、当時の国民の目にはナチズムの「魅力」と映っていたと考えられる。もっとも、ナチズム内部にも性の問題をめぐって路線対立があったし、国民の側もナチズムの支配にすんなり順応したわけではなく、風紀取り締まりをめざした体制の努力がしばしば失敗したことが示しているように、動員された欲望は政治の統制をはずれてしまうことが多かった。こうした観点から、ナチズムの性政治の様態と、それを通じた欲望の動員のメカニズムを明らかにすることが、本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究は、ナチズムの性政治の実態を考察し、その動員のメカニズムを明らかにしようとするものであるが、具体的な研究の進め方としては、⑩ドイツの文書館・図書館等で行う史料調査と、⑪研究代表者の所属研究機関で行う史料分析・研究調査の2つを同時並行的に進めるといった方法をとった。こうした⑩と⑪の両面における研究調査活動を通じて、ナチズムが伝統的な性道徳の革新をめざし、ある種の「性の解放」を約束することで、広範な国民を惹きつける「魅力」を発揮したことを明らかにしようとした。そのための具体的な研究対象として、本研究ではナチズム

における性や生殖の問題、とくに⑦性道徳・性教育、⑧売春・避妊・婚外交渉、⑨同性愛・ヌーディズム・ポルノグラフィーなどの諸問題を取り上げ、それぞれにおいて性と権力がどう関わり、欲望の動員にどう寄与したのかを歴史社会学的に解明することを試みた。

(2) ⑦性道徳・性教育の問題については、とくにナチ党指導部や親衛隊幹部の文書、医療・保健・教育当局関連の文書や雑誌、および一般に流通していた性教育書を幅広く調査するため、各年度2度にわたって⑩ドイツの文書館・図書館、とくにベルリンの連邦文書館と国立図書館で史料調査を行った。そこで得られた史料・文献をもとに、⑪所属研究機関で研究調査を行うことで、ナチズムがワイマル共和国の道徳荒廃と風紀紊乱を批判し、家庭生活の保護と性規範の回復を唱える一方で、健全な性生活をめざして啓蒙活動を展開し、部分的には「性の解放」へ向かうような価値観の変化を引き起こしたことを明らかにしようとした。⑧売春・避妊・婚外交渉の問題については、とくに医療・保健・教育当局関連の文書や雑誌を幅広く調査するため、各年度2度にわたって⑩ドイツの文書館・図書館、とくにベルリンの連邦文書館と国立図書館で史料調査を行った。そこで得られた史料・文献をもとに、⑪所属研究機関で研究調査を行うことで、ワイマル共和国の性的退廃を批判したナチズムが、性欲を満たすためだけの性交渉を民族の衰退をもたらす悪徳として弾圧する一方で、民心の維持を目的とするプラグマティックな観点から、そうした行為の黙認と、場合によってはその奨励および国家管理にいたったことを明らかにしようとした。⑨同性愛・ヌーディズム・ポルノグラフィーの問題については、とくにナチ党指導部や親衛隊幹部の文書、ナチ党や親衛隊関連の雑誌を幅広く調査するため、各年度2度にわたって⑩ドイツの文書館・図書館、とくにベルリンの連邦文書館と国立図書館で史料調査を行った。そこで得られた史料・文献をもとに、⑪所属研究機関で研究調査を行うことで、同性愛・ヌーディズム・ポルノグラフィーの問題が風紀紊乱として取り締まりの対象となる一方、ナチ党内の路線対立や利害対立のなかで、抑圧・黙認・奨励の絡み合う複雑なコントロールの対象となり、結果的に性欲の発散を促す「解放的」な性政策につながったことを明らかにしようとした。

#### 4. 研究成果

(1) ⑦性道徳・性教育の問題については、ナチズムがワイマル共和国の道徳荒廃と風紀紊乱を批判し、家庭生活の保護と性規範の回復をめざす保守的な性道徳を唱える一方で、ナチ党人種政策局や一部の医師・教育者を中心に、性生活の人口・人種政策上の意義を肯定しつつ、正しい性知識の提供によって禁欲的な性道徳の弊害を克服しようとするなど、

健全な性生活をめざして啓蒙活動を展開し、部分的には「性の解放」へ向かうような価値観の変化を引き起こしたことを明らかにした。そして、こうした「進歩的」な活動が、欲望を喚起しつつ生殖の管理をめざす全体主義的な要求と結びつき、最終的には「生きる価値のない生命」の排除という帰結をもたらしたことの意味を考察した。ナチ党の幹部や指導的な教育者の著作や発言に、風紀紊乱への批判や性規範の回復を唱える保守的な主張が含まれていたことについては、これを強調する先行研究が数多く存在するが、ナチ党内の一部の勢力、およびこれと連携した一部の医師・教育者が、健全な性生活をめざして啓蒙活動を展開し、正しい性知識の提供によって伝統的な性道徳の弊害を克服しようとしていた点については、これまで十分な研究調査が行われてこなかった。本研究はこうした理由から、風紀紊乱を批判した保守的な道徳家の性観念を整理するとともに、健全な性生活をめざした「進歩的」なナチ党内勢力、および医師・教育者の見解を明らかにし、後者が性生活の人口・人種政策上の意義を率直に肯定しつつ、禁欲的な性道徳の弊害を克服しようとする啓蒙活動を展開していた事実を実証的に提示することができた。これによって、従来もっぱら保守的な性格をもつものと考えられてきたナチズムの性道徳の複雑で矛盾に満ちた実態が明らかになったが、それにとどまらず、ナチ時代に出版されていた啓蒙的な性教育書の多くが精神科医や心理学者の手によるものであったことから、性科学と精神療法が果たした役割にも注目し、彼らが伝統的な性道徳の弊害を批判していたこと、つまり、性の抑圧が実際には青少年の放任と性的退廃をもたらし、神経症や性的倒錯をひきおこす原因にもなっていると考えていたことも示すことができた。さらにまた、多くの精神科医や心理学者が「民族の健康」をめざしたナチズムの人種政策に深く関与していた事実を考察することで、「心理的な生の支援」という彼らの「進歩的」な目標が、「生きる価値のない生命」の排除という犯罪的な目的と表裏一体であったことを裏付けることができた。

(2) ⑧売春・避妊・婚外交渉の問題については、ワイマル共和国の性的退廃を批判したナチズムが、売春や婚外交渉を不道徳として弾圧する一方で、子孫の繁殖と民心の維持をはかるため、そうした性交渉を黙認するどころか、一部で奨励さえしていたことを明らかにした。そして、とくに売春の規制・管理の目的と実態、避妊具の販売と出産奨励策との矛盾、婚外交渉の奨励と出産奨励策との関係などを中心に、政府当局内の矛盾した対応に焦点をあてることで、ナチズムによる性の国家管理の複雑な実態に関して総体的な視座を提示することができた。売春や婚外交渉に関わるナチズムの性政策については、すでに数

多くの先行研究が存在するが、その多くはナチズムがそうした性交渉を不道徳として、あるいは生殖に寄与しない単なる享楽として弾圧した事実を一面的に強調するという限界を有していた。これに対して本研究は、ナチズムが軍の志気や労働の生産性を保つために、性欲の発散の必要性を認識し、売春の国家管理にまで乗り出したこと、性病の蔓延を防ぐため、出産奨励という目的と矛盾するにもかかわらず、保健衛生上の理由から避妊具の販売を黙認したこと、出生数を上げて子孫を増やすために、カーニヴァルの催しや青少年の野外活動等、一定の範囲で婚外交渉を容認したことなどを明らかにした。ここにはほかでもなく、生殖に寄与しない性交渉さえ民心の維持のために徹底的に活用すべきとするナチズムのプラグマティックな統制策があらわれており、もっぱら生殖の管理をめざすものと考えられているナチズムの人口・人種政策の意義に対しても一石を投じる知見と考えられる。

(3) ⑦同性愛・ヌーディズム・ポルノグラフィーの問題については、これらの問題が風紀紊乱として取り締まりの対象となる一方、ナチ党内の路線対立や利害対立のなかで、抑圧・黙認・奨励の絡み合う複雑なコントロールの対象となり、結果的に性欲の発散を促す「解放的」な性政策につながったことを明らかにした。そして、とくに同性愛者迫害の動機や婚外交渉奨励策との関係、ヌーディズム奨励の実態とポルノグラフィー蔓延との関係、裸体の理想化と女性イメージとの関係などを中心に、ナチ党や親衛隊の対応に焦点をあてることで、ナチズムによる欲望の動員が相反する目的や利害を通じて作動するメカニズムを解明することができた。同性愛やポルノグラフィーの問題に関しては、従来の研究はおおむねナチズムが同性愛を人口政策上・国家政治上の脅威として弾圧したこと、ヌーディズムやポルノグラフィーを風紀紊乱として厳しく取り締まったことを強調する一方、同性愛が戦闘的な男性組織を国家の中核に据えたナチズムにとって制御の難しい微妙な問題であった事実や、ヌーディズムやポルノグラフィーが裸体を人種的理想として擁護するナチズムにとって一定の積極的な価値を有していた事実にはほとんど注目してこなかった。これに対して本研究は、ナチズムが同性愛者を国家の敵として迫害する一方で、突撃隊や親衛隊といった男性集団における同性愛の危険を妨げるために、売春を含む婚外交渉を奨励するにいたったこと、ヌーディズムやポルノグラフィーを猥褻であるとして弾圧する一方で、健康のために日光浴や外気浴を奨励し、美しい裸体を人種的理想として擁護したために、結果としてポルノグラフィーと大差ない写真や絵画の氾濫をもたらしたことを裏付けた。これによって、ナチズムの性政策がそれぞれに矛盾をは

らみつつも、当時の国民に「性の解放」を約束するものとして受け取られ、吸引力を発揮したことが明らかになった。

(4) 以上の知見を通じて、本研究はこれまで暴力や宣伝の効果に還元されがちであったナチズムの政治について、性という視点を導入することにより、人口・人種政策との関わりも含めて、その自発的動員のメカニズムを提示することができた。そして、抑圧・黙認・奨励の入り交じる矛盾に満ちた動員の実態に目を向け、ナチズムが単に抑圧的な性道徳を唱えていたわけではなく、むしろそうした性道徳の革新をめざし、ある種の「性の解放」を約束することで、広範な国民を動員しえたことを明らかにした。研究代表者はまた、これらの研究成果をまとめる作業も終え、著書として出版した。さらに、これと並行して本研究と関わりの深い欧米の研究の翻訳にも取り組み、訳書として出版した。これによって、本研究は一応の完成を見ることになった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

田野大輔、村上宏昭著『世代の歴史社会学』、史学雑誌、無、122(12)、2013、93-97

田野大輔、ナチズムに見る性と政治  
橋下慰安婦発言を考えるために、シノドス、無、134、2013、84-95

田野大輔、エルンスト・ユンガー『パリ日記』、ドイツ研究、無、47、2013、238-242

[学会発表](計2件)

田野大輔、ファシズムの体験学習の試み  
集団行動を通じた社会学教育の一事例、日本社会学会、2013/10/13、慶應義塾大学

田野大輔、歴史のなかのセクシュアリティ、ジェンダー史学会、2013/6/8、奈良女子大学

[図書](計3件)

田野大輔、講談社選書メチエ、愛と欲望のナチズム、2012、294

ダグマー・ヘルツォーク(川越修・田野大輔・荻野美穂訳)、セックスとナチズムの記憶 20世紀ドイツにおける性の政治化、2012、398(3-92、269-295)

井上俊・伊藤公雄編 田野大輔他28名)、世界思想社、政治・権力・公共性(社会学ベーシックス9)、2011、290(65-74)

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

田野 大輔(TANO, Daisuke)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：60330122